

J A M 政策 NEWS Special Issue

2005年9月8日 第S-10号

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

TEL 03-3451-2586

E-MAIL : syakai@jam-union.or.jp

「小さな政府」ってなんだろう？ その2

2005年衆議院選挙【投票日9月11日】にあたって皆で考えてみよう！

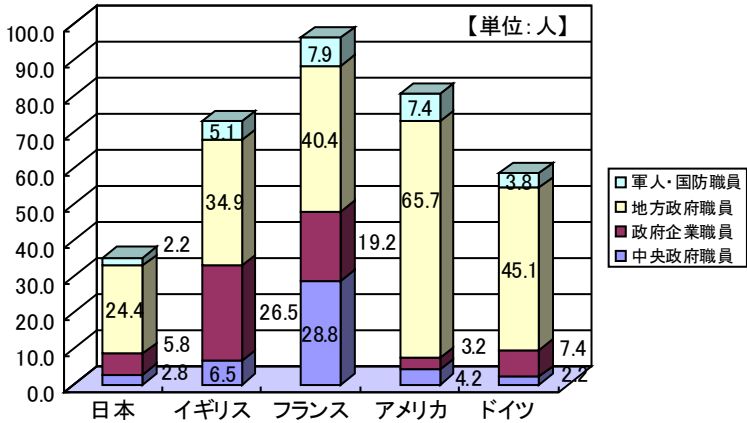
何が小さいと「小さな政府」なのか。公務員を減らし、政府の仕事を減らすことも、「小さな政府」にすることだと考えられます。しかし、人口千人あたりの公務員数は、国際的にいって日本は非常に低い水準です。小泉首相は、郵政民営化で公務員数が減ると言っていますが、郵便局職員の給与に税金はまったく使われていません。

困で、これに議員の費用を加えても、合計20兆円程度。これは、所得税収分の規模で、その他の税金などは一切なくても足りるのです。これが究極の「小さな政府」です。

小さな政府＝自己責任

でも、考えてください。そうなれば、景気対策も雇用対策もなし、福祉や社会保障もなし。国民は自分の生活はすべて、何が起きようとも、自分で何とかしなければならないのです。これが「自己責任」です。企業が倒産して失業しても、失業給付なし、職業訓練や職業紹介もなし。年金も医療も自力で民間の保険に入るしかない。病気になっても医者にもかかれない。アメリカのハリケーン被災者のほとんどが、自己責任で逃げられなかった貧しい人々だといわれています。「小さな政府」をめざすということは、日本をそういう方向にもっていくということです。

人口千人あたりの公的部門における職員数の国際比較（総務庁資料）



究極の「小さな政府」とは？

もっと重要なのは、政府の仕事・役割をどう考えるかということです。政府の役割を最も小さく見る考え方は、18世紀の経済学者アダム・スミスによる「夜警国家観」です。夜警国家とは、政府の果たすべき役割を、国民が夜でも安心して暮らせるようにすること、つまり、国防・治安維持・大規模公共事業に限定するものです。現在の日本でいうと、防衛関係費、警察費、消防費などの範

株を右から左に動かすだけで何億円も儲けている人は別として、地道に働く私たち勤労者にとって、これが良い社会でしょうか。

暮らしの安心を効率良く

政府の役割を「大きい」「小さい」だけで語るのは乱暴です。本当に必要なのは私たちが支払う税金をムダ遣いせず、暮らしの安心のためにきちんと役割を果たす政府。今回の選挙は私たちがこの選択をする選挙なのです。

9月11日は家族そろって投票に行きましょう！